

since 1920

運輸新聞

E-mail inquiry@unyu.co.jp URL http://www.unyu.co.jp

発行所・運輸新聞株式会社
東京都荒川区西日暮里3-6-10
佐々木ビル3F 〒116-0013
TEL03-5685-0035
関西支社 大阪市中央区瓦町1-3-2
〒541-0048 TEL06-6209-3261
発行人・野口香織
火・金発行(祝日を除く)
3,600円/月(送料・税込)

2021年

2月2日(火)

第17368号



先端のニーズに応える技術力で

輸送社会の未来を**開く!**

日本トレクス株式会社

2021年3月期第3四半期業績と通期見通し

(上段=第3四半期、下段=通期見通し)

単位=百万円、%

	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
日本通運	1,498,723	△4.3	49,064	8.9
ヤマト	1,295,676	3.0	89,747	79.2
H D	1,680,000	3.1	82,000	83.4
S G H D	982,024	9.7	88,533	38.4
日立物流	474,481	△7.1	26,575	2.6
山九	400,654	△6.2	26,236	△13.6
三菱倉庫	154,823	△9.3	7,814	△21.2
ハマキョウ	89,434	△3.6	8,220	1.7
レックス	121,000	△1.2	10,000	△1.9
アルプス	72,443	△5.8	3,229	△2.1
物流	96,000	△4.7	3,750	△9.0
宇徳	35,266	△12.2	△414	—
	48,000	△11.6	150	△94.7

日立物流の営業利益は調整後営業利益

物流企業の第3四半期決算

日通など3社増益に転換

物流大手企業の2021年3月期第3四半期決算が出始めた。新型コロナウイルス感染症拡大による影響が継続し、BtoBを担う各社はいずれも減収を余儀なくされている。一方、利益は第1四半期、第2四半期と着実に改善し、日本通運、日立物流、ハマキョウレックスの3社は第2四半期の減益から増益に転換した。通期見通しは、4社が売上高を、日本通運、ヤマトHD、SGHD、日立物流、山九の5社が利益を上方修正した。SGHDや日立物流など5社は増配を予定している。

日本通運 売上・利益を上方修正
日本通運の2021年3月期第3四半期決算は、3月期第3四半期決算は、日用品、一部の重化学工業品、生産用機械などの設備関連貨物の荷動きは依然として鈍く、総じて低調な荷動きで推移した。一方で、国内はサプライチェーン見直しなどに伴い、倉庫需要は旺盛で、海外は航空輸出貨物の取り扱いが増加し東アジア、南アジア・オセアニアが増収となった。利益は日本東アジア、南アジア・オセアニア、警備輸送が増益となり、全体の利益も中間期から一転して増益に転じた。国際貨物の輸送需要伸び、各種費用の削減効果が見込まれ、増収を修正。売上高は500億円上方修正し2兆500億円、営業利益は170億円上方修正し720億円とした。

日本通運 グループの役割整理 来年1月純粋持株制へ

日本通運は、1月29日開催の取締役会で、2022年1月4日(予定)に純粋持株会社へ移行する方針を決定した。

今後、単独株式移転による株式移転計画承認取得を4月下旬に、株式移転承認時株主総会を6月下旬に開き、12月29日に上場廃止、来年1月4日に設立登記・持株会社上場を予定している。

中長期的な視点でグループ経営を進化させ、企業グループとしての価値の最大化を目指すため、グループ経営戦略機能と事業推進機能を分離。グループ経営機能を国内事業会社から分離することで、日本起点のグローバル事業のさらなる成長を促すとともに、成長領域である海外事業に経営資

源の配分を進める。持株会社と海外の地域統括会社との連携により、統制機能を強化する。

持株会社は、これまでの各組織の売り上げ・利益の指標だけでなく、全体の最適を促すKPIを導入し評価できる仕組みを構築。ワンストップ・アカウントマネジメント体制を強化する。

日本通運は、日本国内ロジスティクス事業および日本起点のグローバル事業をけん引する役割が中心になる。物流サポート事業会社は、グループ内向けサービスの機能会社と顧客向け物流関連サービスを提供する事業会社に役割を整理する。グループ体制の詳細は現在検討中。

1月29日の取締役会で自己株式取得について決議を行う。2月1日から3月24日を期間に普通株式200万株(上限)、発行株式割合2.14%を市場買付により取得。取得価額の総額は100億円。

日立物流 通期も減収増益を予想
日立物流の2021年3月期第3四半期決算は、新型コロナウイルスの影響で売上高で270億円、物

SGHD 営業利益1000億円へ
SGホールディングスの2021年3月期第3四半期決算は、デリバリー事業はBtoBは減少したものの回復傾向で推移し、BtoCはeコマースの拡大を背景に増加し、期中の取扱個数は前年同期比6.0%増となった。ロジスティクス事業は、上期は個人用防護具の緊急国際輸送を継続的に受託、下期以降は既存顧客の物量回復があった。

り、不動産事業は計画的な保有不動産の売却により、3つのセグメントいずれも大幅な増収増益となった。

通期連結予想については、売上高を220億円、営業利益を30億円上方修正し、営業利益は1000億円の大台を見込んでいる。

業績修正に伴い、期末配当を1円増配の16円と設定した。

ヤマトHD 改革前倒し過去最高益
ヤマトホールディングスの2021年3月期第3四半期決算の利益面は過去最高額を更新した。経営のブランドデザイン「YAMATO ONE X T100」の宅急便のデジタルトランスフォーメーション(DX)、Eコマースシステムの確立、法人向け物流事業の強化に向けた3つの事業構造改革を前倒しで進め、グループ経営資源を結集し、不動産事業は計画的な保有不動産の売却により、3つのセグメントいずれも大幅な増収増益となった。

通期連結予想については、売上高を220億円、営業利益を30億円上方修正し、営業利益は1000億円の大台を見込んでいる。

業績修正に伴い、期末配当を1円増配の16円と設定した。

荷動き指数の推移

	7~9月実績	10~12月実績	1~3月見通し
国内向け出荷量	▽59	▽40	▽34
外資コンテナ輸出	▽51	▽25	▽20
輸入	▽47	▽24	▽17
国際航空輸出	▽43	▽30	▽28
輸入	▽41	▽28	▽26

1~3月見通しを業種別にみると、全業種(15業種)すべてマイナス。食料品・飲料など10業種は前期に引き続き改善する。生産財卸や消費財卸など5業種は悪化するとみられる。

輸送機関別では、全機関(6機関)でマイナスだが、国内航空を除き一般トラックなど5機関で改善が見込まれている。在庫量と営業倉庫保管量は在庫調整が進み引き続き減少傾向だが、1割改善など大きな動きはない。

一方、運賃・料金は、トラック運賃の上昇圧力が弱まり、ほぼ横ばい。業種によって違いがあるが、食料品・飲料は堅調に推移している。売上高に対する物流コスト割合は12で足踏みも2ケタのプラスが続く見込み。

輸出入貨物の動向は、全輸送機関で改善傾向ながら2ケタのマイナスが続く。コロナ禍から立ち

減収(同11%減)ながらも増益(同31%増)となった。通期連結予想は、第4四半期のコロナ影響4億0億円とした。

回復傾向さらに 3月15日 34、下振れの懸念も

日通総合研究所は、企業物流短期動向調査(日通総研短観)12月調査の結果を発表。10~12月の国内向け出荷量「荷動き指数」は▽40となり、前期(7~9月)より6割上昇。前回見通しより13割上振れている。リマン・ショック後の▽75、▽69に次ぐ低水準となった昨年4~6月(▽65)を底に、7~9月か

1~3月見通しを業種別にみると、全業種(15業種)すべてマイナス。食料品・飲料など10業種は前期に引き続き改善する。生産財卸や消費財卸など5業種は悪化するとみられる。

輸送機関別では、全機関(6機関)でマイナスだが、国内航空を除き一般トラックなど5機関で改善が見込まれている。在庫量と営業倉庫保管量は在庫調整が進み引き続き減少傾向だが、1割改善など大きな動きはない。

一方、運賃・料金は、トラック運賃の上昇圧力が弱まり、ほぼ横ばい。業種によって違いがあるが、食料品・飲料は堅調に推移している。売上高に対する物流コスト割合は12で足踏みも2ケタのプラスが続く見込み。

輸出入貨物の動向は、全輸送機関で改善傾向ながら2ケタのマイナスが続く。コロナ禍から立ち

円とするなど売上高を110億円下方修正し6400億円、営業利益は逆に25億円上方修正し340億円とした。

上りの早い中国を核に、外資コンテナによる輸出入ともにアジア、北米で上昇傾向が続く。

EC事業者向けAPIプラットフォーム提供 佐川急便

佐川急便は不在再配達削減という課題解決に向け、ECサイトで購入した荷物を1回で配達する「環境づくりのため」のAPIプラットフォームを構築し、3月1日から、「EC事業者向けAPIプラットフォーム」の提供を開始する。

これによりEC事業者と物流事業者が協同して課題解決に取り組むことができる。同時に、EC事業者、購入者(荷受人)、物流事業者、各々の作業負担を軽減することが可能になる。

ECサイトで購入商品の情報と配送情報が一貫して管理・照会できるほか、配達日時の変更も可能になり、荷受人、EC事業者の利便性を高めることができる。

提供サービスは①送り状ナンバー問合せAPI(配送状況照会)②配達日時変更API。今後も機能を拡充していく。

螢

地方に住んでいる天文好きの友達からラインで今三日月の近くに木星と土星が見えるよと連絡が入り、外に出て夜空を見上げ生まれ初めて木星と土星を確認した。先日は火星の月接近があり火星も確認できた。冬は空気が澄んでいて晴れた日の夜空は色んな星がはっきり見えて楽しい。今夜を見上げると真上にオリオン座が見える。三連星を見つけるとその上ベテルギウス、下にリゲルがあり、左に目をやるとごいぬ座のプロキオンとその下方においぬ座のシリウスが見えベテルギウスと結ぶ冬の三角形を形作っている。ベテルギウスの大きさは太陽の800倍、地球からの距離が500光年の彼方にある恒星で、もうすぐ超新星爆発を起して消えてしまふと言われている。今見ているベテルギウスは室町時代に発した光で、仮に今超新星爆発を起しても500年後でないと確認できない。

◆三連星の近くにはオリオン大星雲、馬頭星雲があり肉眼では見えないが天体望遠鏡を買ってでも見てみたい衝動に駆られる。新型コロナウイルスの緊急事態宣言下で巣ごもり生活を強いられているが、晴れた日は夜空を見上げて悠々の時と無限の空間に想いを馳せストレス解消を図ってはどうだろう。見上げてごらん夜の星を」

YT(21・2・2)